

日韓の歴史を学ぶ会・IN KYOTO

主の御名を賛美します。

この度、以下のように日韓の歴史を学ぶ会を実施する事になりました。

今回は京都で日韓の歴史を学びます。多くの方の参加をお待ちしています。

■日時：2016年3月19日（土）午後1時（解散予定時刻 午後5時）

■集合：京都駅中央コンコース改札前（1階・八条口ではありません）

※参加費はありませんが、京都駅から市バス、地下鉄、美術館入館料等は自己負担です（約1,500円）

■行先：高麗美術館、同志社大学 尹東柱詩碑、相国寺 朝鮮通信使の碑

・**高麗美物館**：在日の鄭詔文さんが苦節の上に開館。

〒603-8108 京都市北区紫竹上岸町15 TEL 075-491-1192

京都市バス 加茂川中学前下車1分

裏面に上田正昭館長（京都大学名誉教授）の趣意書があります。

・**尹東柱**：韓国のクリスチャン民族詩人として知られる。立教大学を経て同志社大学で学ぶ。在学中朝鮮語で詩を書いた容疑により治安維持法で逮捕、投獄。1945年2月、朝鮮解放を前にして福岡刑務所で獄死。

→当日は尹東柱詩人をこよなく愛す井田泉司祭が詩碑の前でお話をしてください。

・相国寺：京都五山の一つ。江戸時代の朝鮮通信使が京都に来た際に外交担当をした。

※**夕食懇親会**

水月亭（5時半位から・自由参加。参加希望者は事前に呉光現か奥司祭にお申し込みください）

京都駅南の南区東九条地域は京都での最大の在日居住地域。そこで京都でも有名な水月亭で「在日料理」をいただきます。（約3,500円程度、呉光現か奥司祭にご連絡ください）

【共催】

聖公会生野センター大阪教区後援会／京都教区社会委員会

連絡先：呉光現（080-3777-2566）、奥晋一郎司祭（070-6684-1371）

高麗美術館

日本列島にさきだって文明の光華のきらめきを示した朝鮮半島の文物には、注目すべきものが少なくない。青銅器や金銅製品、陶磁器や彫刻、絵画など、そのひとつひとつに、朝鮮民族の才技（てひと）のわざとたましいが躍動する。高麗美術館は 1988 年 10 月 25 日にオープンした。汗がにじみ、そして血の通うその展示品の数々に、多年の念願の果たした、輝きを実感する。鄭詔文さんとはじめてお目にかかったのは、1967 年の朝鮮史研究会大会のおりであった。当時からすでに鄭詔文さんは高麗美術館の建設を“夢”としておられた。

小さな美術館かもしれないが、そこにはきらりと光るものがある。朝鮮半島の古代から近代までの文物の、あせない輝きがある。“もの”そのものが、生きた歴史と文化のありようを問いかける。高麗美術館の展示を媒体に、より身近に、みずから会得し、みずから学習して、そのへだたりを乗り越えたところで実感してほしいものである。

政治やイデオロギーの枠組みのみで、文化をうんぬんすることはできない。優れた高麗青磁や朝鮮白磁の背後には、そのような逸品をつくりだし生み出した、たくみの人々がいた。渡来文化の背景にも、古渡（こわたり）や今来（いまき）の集団があった。そのまじわりの接点にも目くばりしたいものである。高麗美術館館友のあらたな輪がつながって、この美術館のさまざまな企画が有意義なものとなるよう、心から願ってやまない。

高麗美術館館長 上田正昭